

### 3. 金沢大学東兼六遺跡 (金沢大学教育学部附属養護学校)

#### (1) はじめに

金沢大学教育学部附属養護学校内に位置する。調査は養護学校体育館建設に伴う試掘調査であり、平成12(2000)年5月31日～6月5日にかけて行われた。調査には0.25m<sup>2</sup>の重機を使用した。

試掘調査の範囲(第18図)は、金沢大学施設部と同埋蔵文化財調査センターとの協議の結果、工事範囲に沿って設定したもの(①、②、③)と、現場で層位確認のため設定したもの(④、⑤)とがある。

#### (2) 調査の経過

5月31日の4時過ぎに施設部から連絡があり、養護学校に向かう。到着すると、すでに①の北側と、③の南側の一部が掘削されていた。その段階では、①で建物基礎が確認できた。

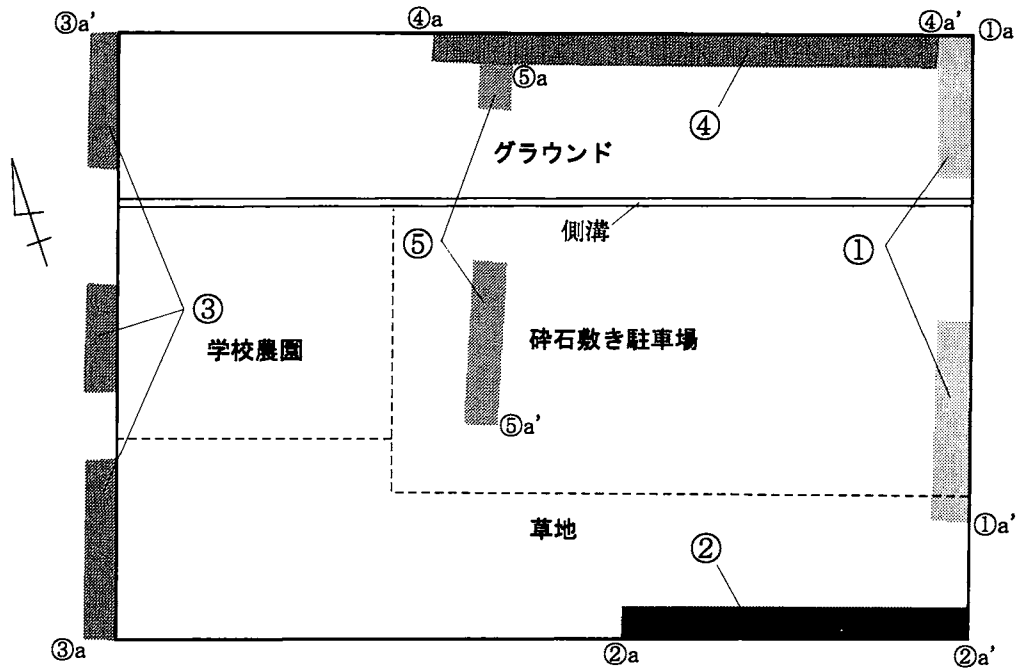
6月1日は、③を北に向かって掘り進め、次に①を南に向かって掘り、②の途中で終了した。③の北側と、①の南側で建物基礎が確認できた。

6月2日は、②の途中から始め、④の途中で終了した。②でプールの跡と思われる掘り込みと、④で建物基礎を確認した。また、④からは近世の遺物が多く出土した。

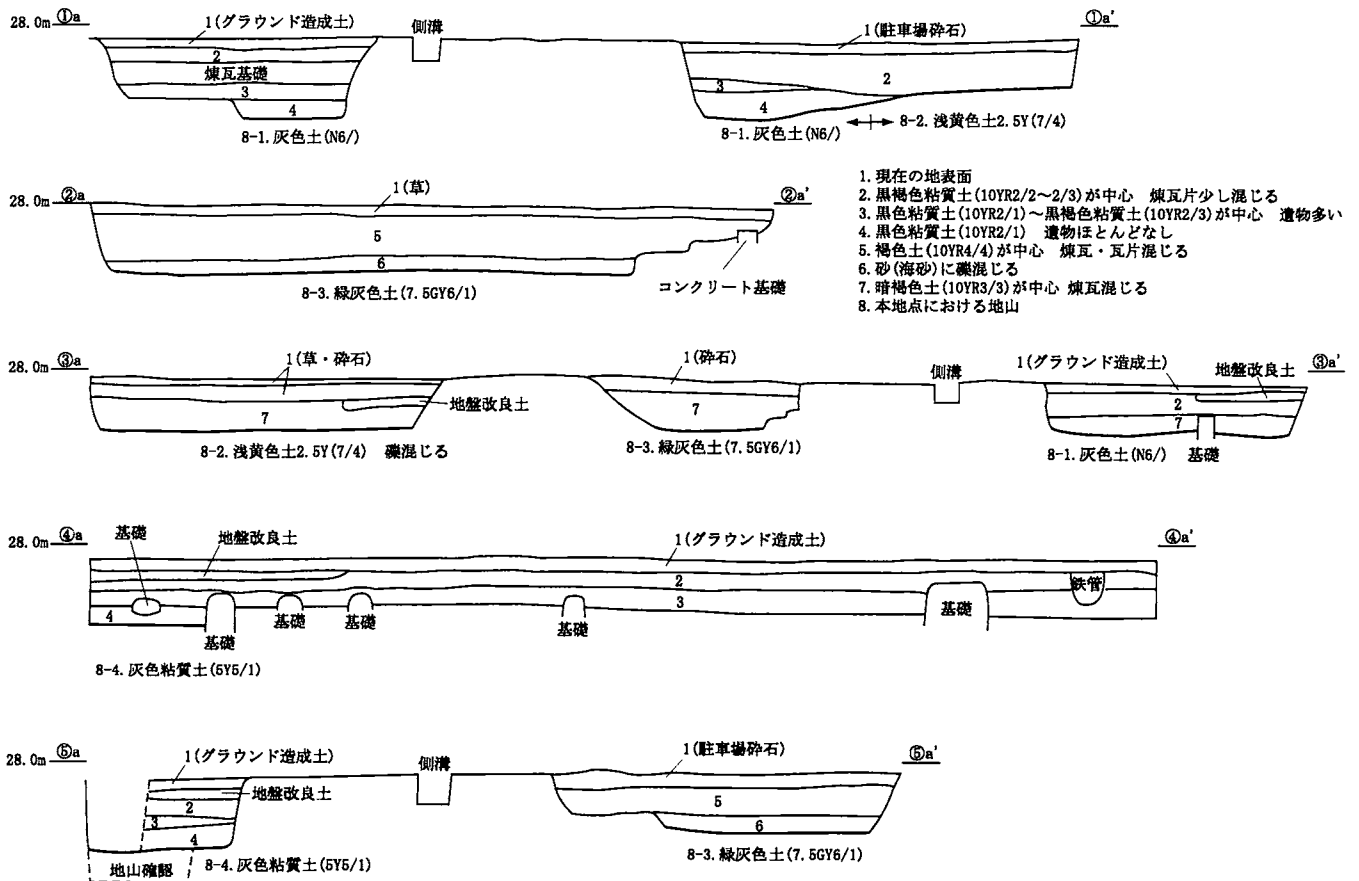
6月5日は、④の途中から始め、⑤を掘り、全体の図面をとって本調査を終了した。

#### (3) 調査結果

調査の結果(第19図)、①、④で近世に属すると思われる遺物が大量に出土した。しかし、遺物を含んでいた3層下の4層からは遺物がほとんど出土しなかったことから、3層は4層を掘り起こしたものとは考えにくい。さらに3層には煉瓦片も少量含まれる。よって、3層は他から運んできた客土の可能性が高く、調査の対象とはなり得ない。また4層に関しても、上述のように遺物がほとんどなく、遺構も確認できなかったため、調査の対象となり得ない。よって、今回の試掘調査の結果、発掘調査の対象になりうる遺構等は確認できず、発掘調査は行わないことが決定した。



第18図 東兼六遺跡試掘調査範囲 (1/400)

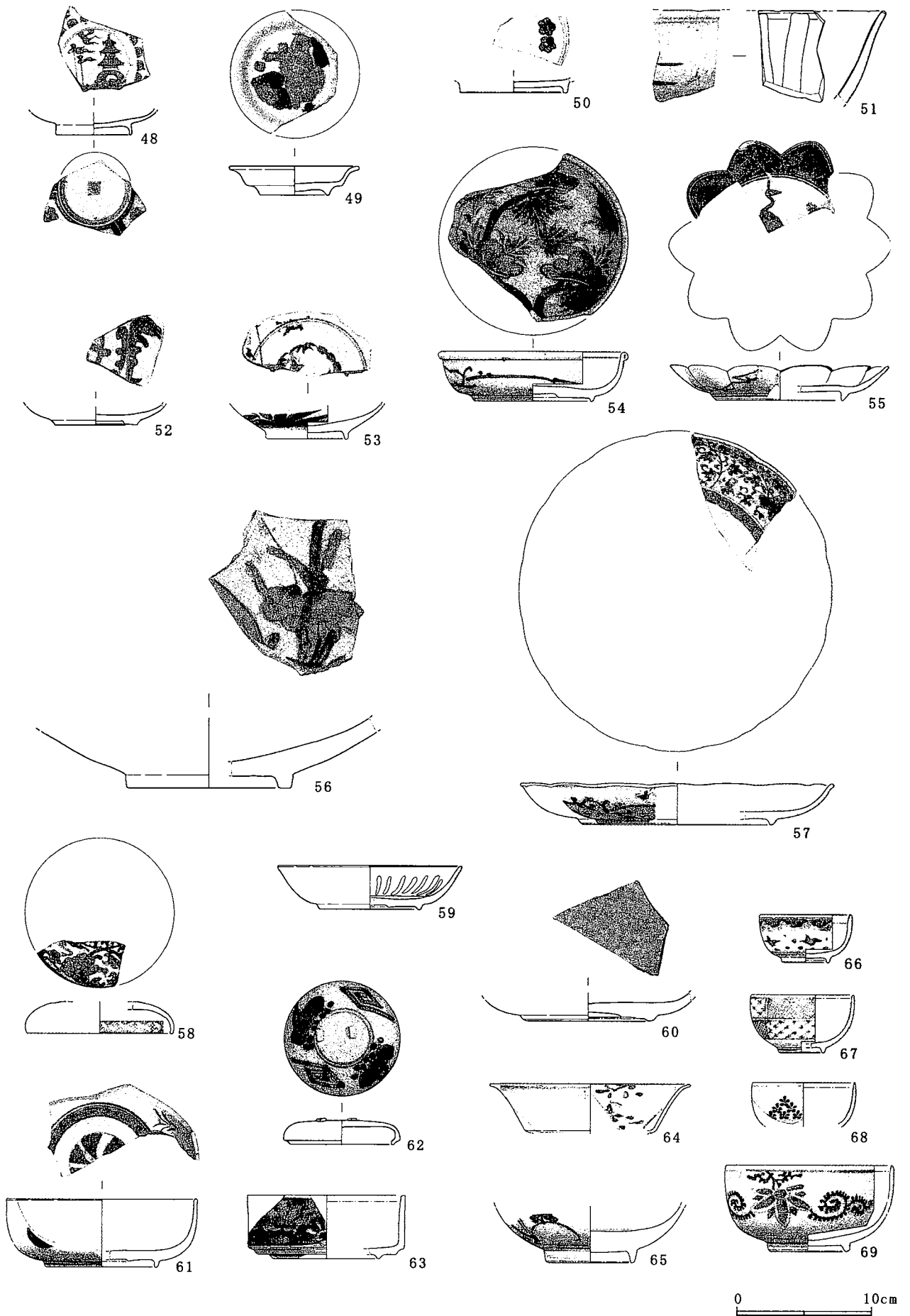


第19図 東兼六遺跡試掘調査断面図 (1/200)



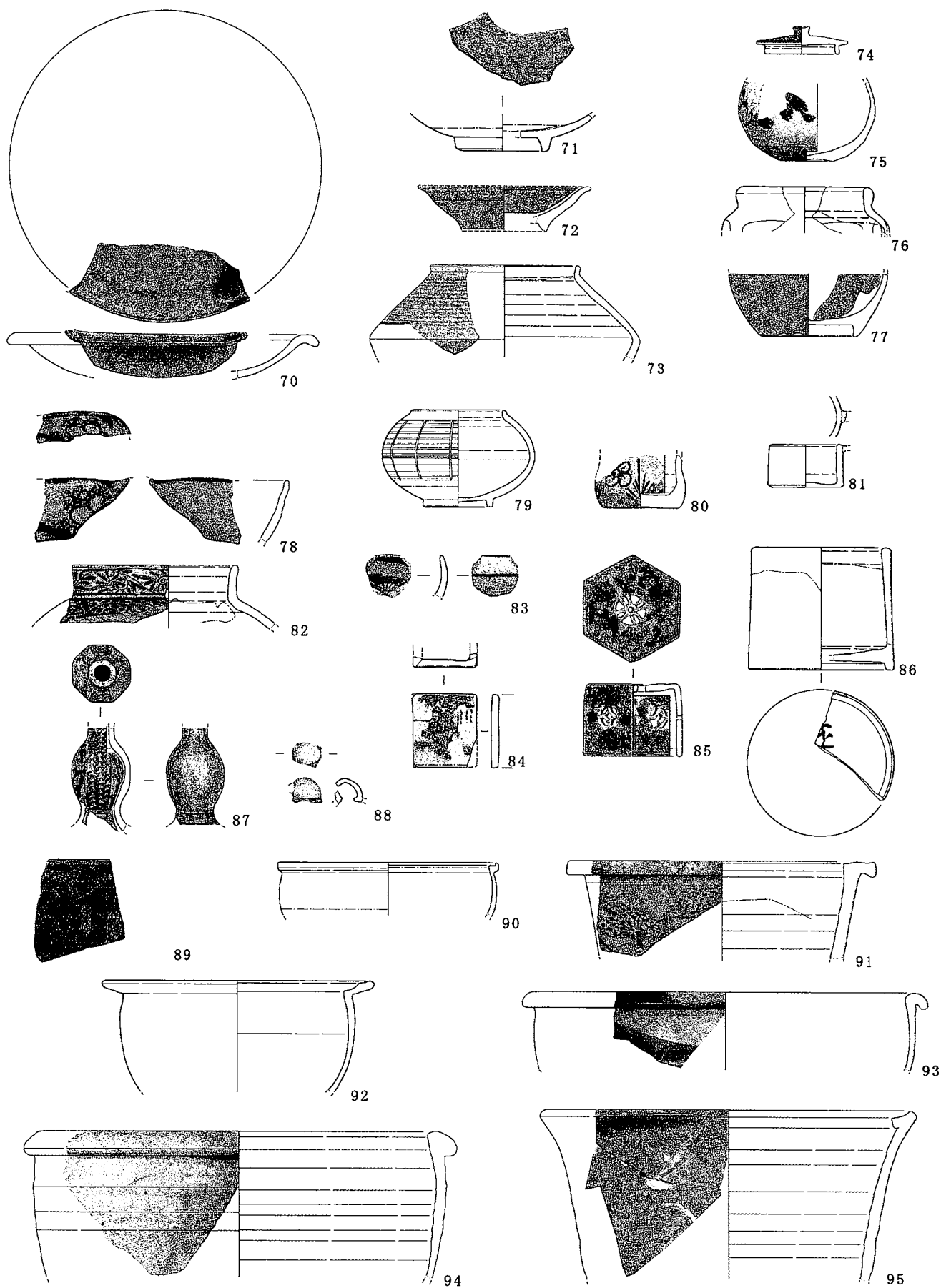
第20圖 東兼六遺跡出土遺物1 (1/4)

1~24・30~36 磁器—染付, 25~27・29 磁器—色絵, 28 磁器—色絵・染付, 37・38 磁器—白磁, 39~41 陶器—灰釉, 42 陶器—染付, 43 陶胎染付, 44 陶器—鉄釉・白泥, 45 陶器—灰釉・鉄釉, 46・47 陶器—綠色釉



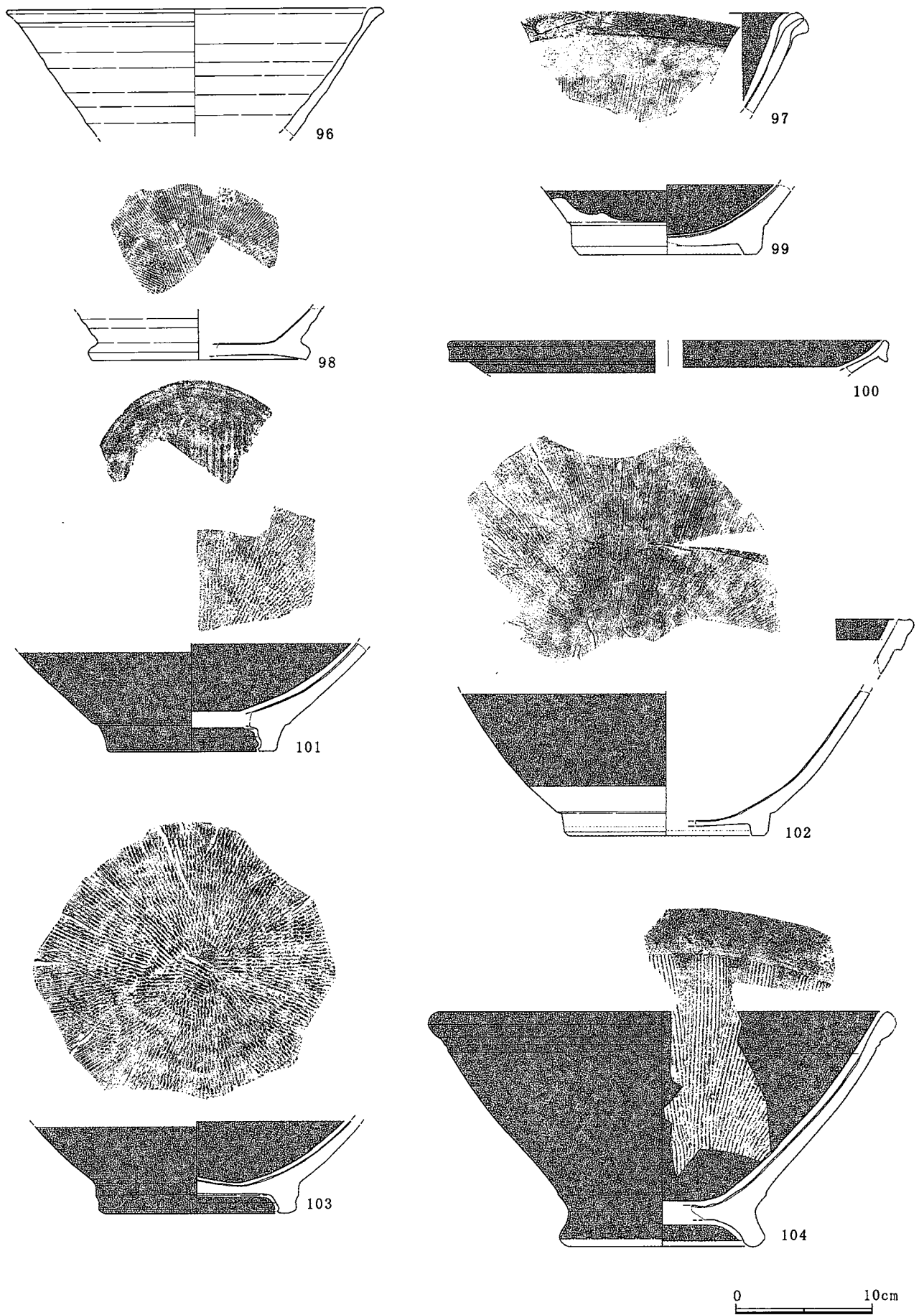
第21図 東兼六遺跡出土遺物2 (1/4)

48～54・56～58・62～63・65～69 磁器—染付, 55 磁器—染付・口錆, 59 白磁—口錆, 60 青磁, 61 磁器—染付・色絵, 64 磁器—色絵



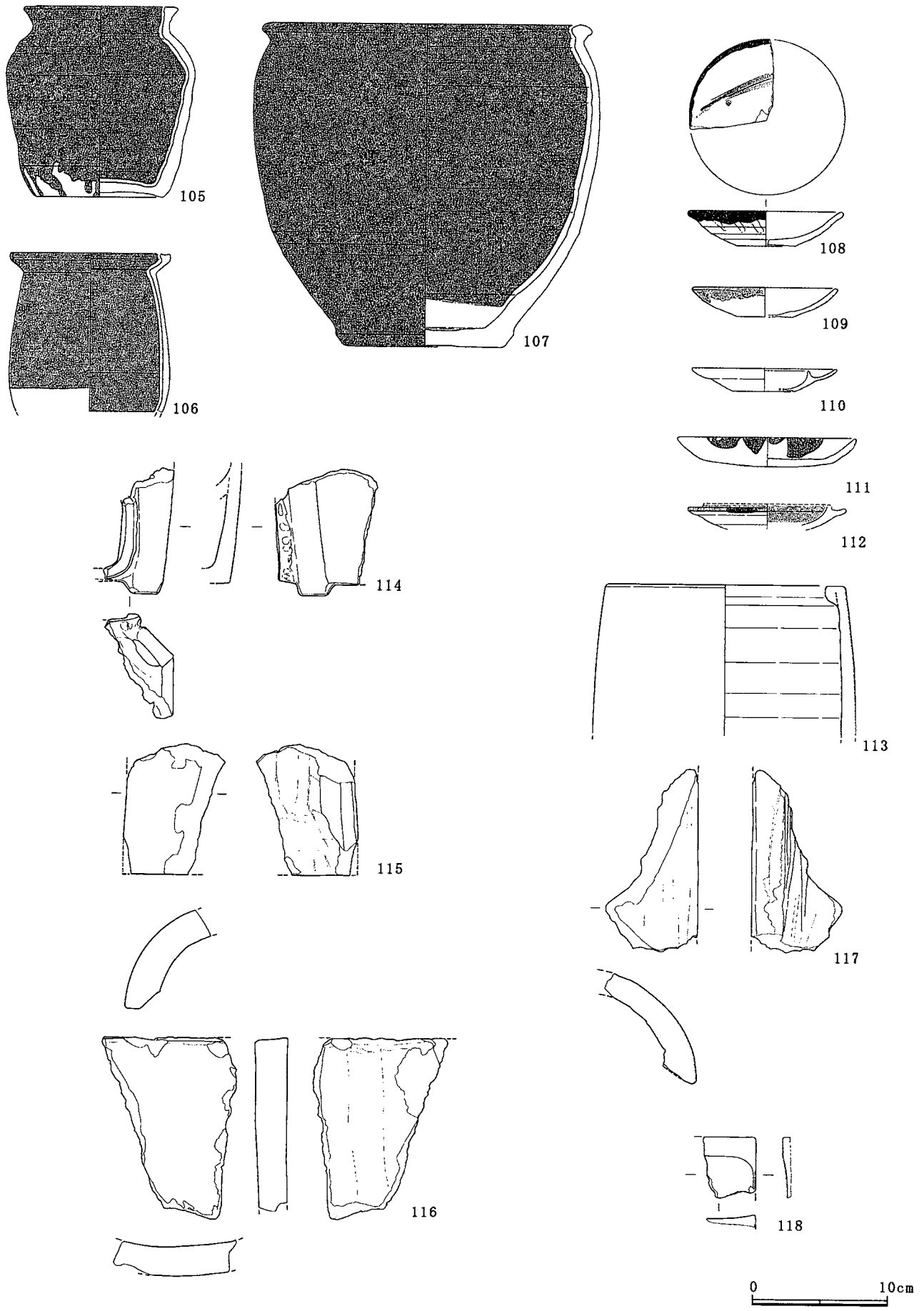
第22図 東兼六遺跡出土遺物3 (1/4)

70-93-94陶器—灰釉・鉄釉, 71陶器—灰釉・白泥, 72-74, 77-89陶器—鉄釉, 73-76-79-90-92陶器—灰釉, 75-91陶器—灰釉・鉄絵・白泥, 78陶器—白化粧土上呉須絵, 80陶器—鉄絵, 81白磁, 82-87磁器—色絵, 83磁器—染付・口鏝, 84-85-88磁器—染付, 86陶器—綠色釉・白泥, 95陶器—灰釉・上野釉



第23図 東兼六遺跡出土遺物4 (1/4)

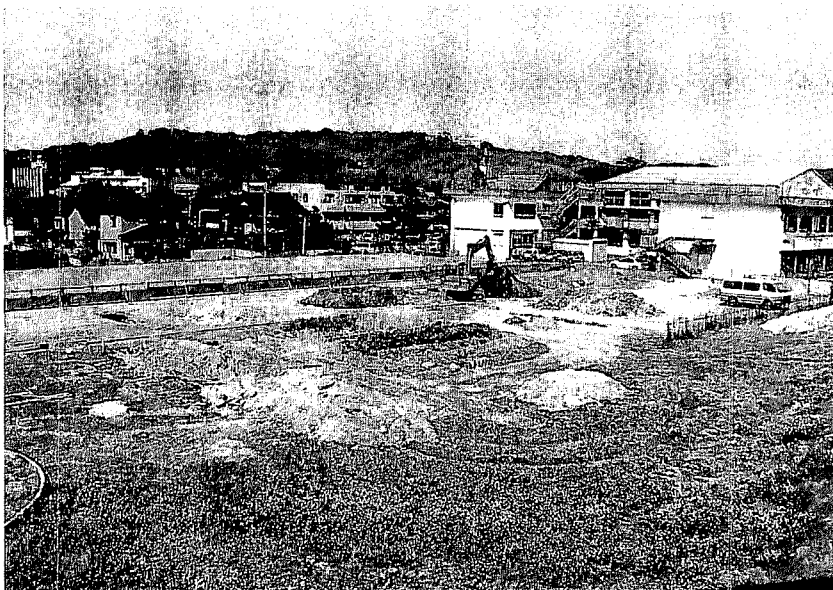
96 陶器—灰釉, 97・99・100・101～104 陶器—鉄釉, 98 陶器



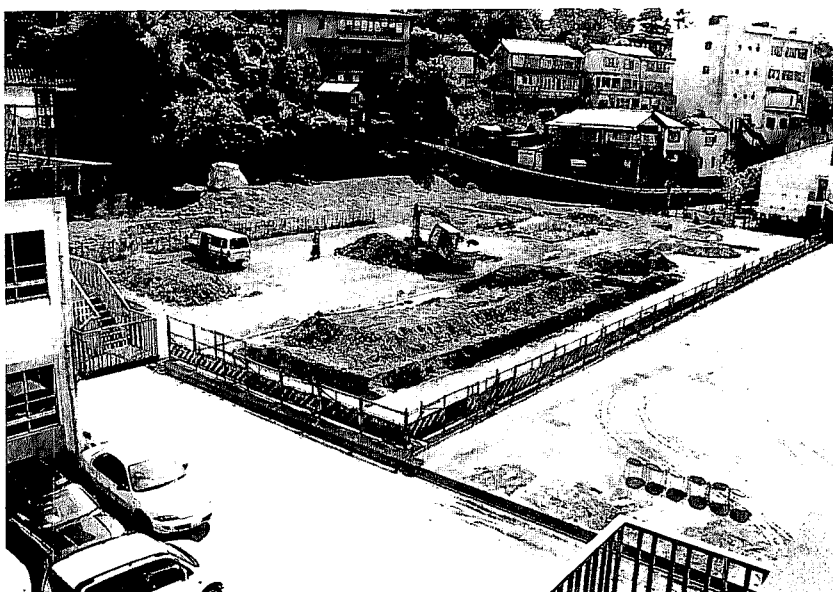
第24図 東兼六遺跡出土遺物5 (1/4)

105～107 陶器－鉄釉, 108～110 陶器－灰釉, 111・113・114 土師質土器, 112 土師質土器－透明釉, 115～117 いぶし瓦, 118 石製硯

東兼六遺跡  
全景



東兼六遺跡  
作業風景



東兼六遺跡  
出土遺物

